

## 作品・評

独断すれば、芸術作品は実用品であり、とりわけ修太氏の絵は優れて実用品だと思っている。氏の絵に、ふと目をやり、大きく息を吐き目を細めて心のなごみのうちに我にかえる。心地よくほぐれた気分が癒された自分に少し驚く。時に椅子にかけてゆっくり見ていたい時がある。気持の中を修太氏の見色彩がいきずいて風や陽光にみたされる。快感と再生が一瞬にして起り、じんわりと広がっていく。私の病院にある作品の下でたたずんでいる入院患者さんをよく見かける。「ただ、気持ちいいんですよ」と言った。人や「この絵を見てると、いやな夢を見なくなる」とポツリともらされた人もいる。病む心には充分、実用の役を果している。しかも実用のものであるから、いつも手許、目許においておきたくなる。目をやれば修太氏の絵がある暮らしがいい。つまりは欲しくなるのである。かつて心底ほしいと思った絵が何枚かあった。今はただひたすらに森崎修太氏の作品が待ち遠しい。ただ、最近少し異変もおこっている。昨年の修太氏のパリ・セーヌの一枚である。この絵を前にして、何も語れない。見て立ちつくして沈黙のうちに、ただ見ている。色彩は躍らないし奥行きは静かである。修太氏は色彩のピューリタンから、又、別の世界を眺めだしておられるのか。今年の氏の個展がことさら待ち遠しい所以である。(了)

2001・6・29

松本善男



展覧会でのちょっといい話

まだ、ベビーカーに乗っていた桃ちゃんがピラミッドを描いたピンクの作品を指さしたのは・・・'95年の夏だった。以来、可愛くおしゃまに成長して行く桃ちゃんは、ものおじしないで毎年、おしゃべりにきてくれる。

同じ場所・同じ時期に個展を続けていると、子供さん達との出会いと成長ぶりも楽しみの一つだ！

花奈ちゃんも一緒に親子で



元気はつらつ桃ちゃん

パパとお揃い尚ちゃんファミリー



## 「修太先生の作品との出会い」

2001・夏 島崎孝一



鮮烈な関西大震災の記憶もまだ生々しかった6年前にたまたま訪れた神戸阪急デパートの画廊で、初めて修太先生の作品と接した時の感動と喜びは、今もはっきりと記憶しております。美しい街なみは一瞬にして廃墟と化し、ほこりにまみれた神戸の街で拝見した先生の絵は、色彩感覚にあふれてまぶしい程でありましたが、又 私共を何かホッとさせる「いやし」の絵でもありました。とても新鮮で純粋な色でいろどられた、大らかで楽しい絵は、私共をやさしく抱擁してくれます。

森や芝生のグリーン、空や海のブルー、遠景の純白な海岸、之等の色は何れも限りなくグリーンであり、限りなくブルーであり、又 限りなく純白なのです。之等の豊かな色彩はドビュッシーやラヴェルの音楽にも通じるものがあります。そして、おしゃれな「雨のパリ」が我が家の寝室をかざっております。

いつ迄も素晴らしい色彩感覚で私共を魅了し私共に喜びをお与え下さい。



### "ボンジュール修太"

ファンクラブ

初顔合わせ

in

博多

九州・博多地区

山本義夫会長

夏祭り「山笠」を一番頭で担ぐ熱い男性！ゆえ・・・



東京・横浜地区

上山万智子会長

病院・婦長時代・・・

「修太作品」と運命的出会い！

描きたいものを、思うままに！・・・筆をとって欲しい。」 これが、お二人の森崎修太への共通するメッセージ！ 優しく・厳しく今後ともご指導を！！

ファンの方々との交流



神戸展に寄せて・・・  
アトリエにて



神戸の街との出会いには私の心も  
だと思えます。青い海が一瞬も  
眠めやボンボン船が往来するメリメリ波  
止場の船溜りもよく好みます。今に  
きた。あから三アアを絶た今日  
も神戸に漂う自由の風が爽やかな  
光りも言えずおはようです。  
私の好きな神戸で個展が出来るのは  
私にとっても幸せなことと思えて  
おります。  
Shota  
2001.7

### お知らせコーナー

今後の「修太個展」 予定

'01 11/20～26日・・・仙台

'02 1/28～2/3日・・・札幌

'02 4/30～5/6日・・・福岡